

GPC-4920

分散処理高速メモリンクインタフェースモジュール用 Windows ドライバ



概要

GPC-4920 は、Windows 上のアプリケーションから、弊社分散処理高速メモリンク製品を制御するためのソフトウェアです。弊社分散処理高速メモリンク製品を Windows 上のアプリケーションから DLL をダイナミックリンクし、API をコールすることにより制御します。

特長

- スレーブインタフェースモジュール上にある 64MB のメモリ(DPRAM)へアクセスしデータのリード/ライトをするだけで、容易にデータの送受信を行うことができます。
- インタフェースモジュールからの割り込み発生時にイベントを発生させることができます。
- 32 ビット×127 件の FIFO を使用したデータ転送を行うことができます。FIFO を制御コマンド転送用として使用することより、DPRAM をデータ転送専用の領域として使用できます。
- ウォッチドッグタイマの状態をもう一方の分散処理高速メモリンクから確認することが出来るため、相互にシステムの監視を行うことができます。
- STB, ACK を利用した同期処理を行うことができます。
- フリーランカウンタがマスタインタフェースモジュール、スレーブインタフェースモジュール両方からリード可能であるため、このカウンタの値(時間)を基準に制御することができます。
- 弊社 CPZ シリーズの分散処理高速メモリンクが実装されている弊社 CPZ FA システム(システムユニットと CPU モジュールの組み合わせ)に対してリセットを出力することができます。
- 弊社 CPZ シリーズの分散処理高速メモリンクが実装されている弊社 CPZ FA システム(システムユニットと CPU モジュールの組み合わせ)に対して電源制御を行うことができます。
- 各機能の利用例を示したサンプルプログラムが付属しています。ソースを公開していますので、自由にプログラムを拡張することができます。
- 画面上で機能や使い方を説明するヘルプをサポートしていますので、開発中に関数の詳細説明など、簡単に参照することができます。
- インタフェースモジュールの診断を行うプログラム、動作確認プログラムが付属しています。

対応 OS

Windows11 x64
Windows Server 2016 64bit
Windows 10 IoT Enterprise x64
Windows 10 x64
Windows Server 2012 R2

対応言語

Microsoft Visual C++ 2015
Microsoft Visual C# 2015
Microsoft Visual Basic 2015

注意事項

—

